

## 原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和3年7月6日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：児嶋長官官房総務課長

### <本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから7月6日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○児嶋総務課長 報道官の児嶋です。

それでは、お手元の広報日程に従いまして、補足説明をいたします。

まずは1番の原子力規制委員会の関係です。

(1) 第19回原子力規制委員会。議題は4つございます。

議題1、標準応答スペクトルの規制への取り入れに伴う基準地震動の変更の要否に係る審議結果（九州電力玄海原子力発電所）。こちらは標準応答スペクトルの規制への取り入れに関しまして、玄海原子力発電所の基準地震動の変更の要否について、公開会議で審議した結果を委員会に報告するものです。

議題2、安全研究プロジェクトの評価実施要領の改正案並びにそれに基づく事後評価（案）及び中間評価（案）の修正。こちらは6月16日の原子力規制委員会におきまして、技術基盤グループの安全研究プロジェクトの事後評価に関し、評価方法を見直すよう委員会に指示がございました。これを受けまして、評価実施要領の改正案とその改正案を踏まえて修正した令和2年度に終了したプロジェクトの事後評価などを委員会に諮るものです。

議題3、令和3年2月13日の福島県沖の地震を踏まえた東京電力福島第一原子力発電所の耐震設計における地震動とその適用の考え方。こちらは2月13日の福島県沖地震につきましては、福島第一原子力発電所の弾性設計用地震動を上回っていたことを踏まえまして、今後の耐震設計で用いる基準地震動などとその適用の考え方について委員会に諮るものです。

議題4、原子力発電所の新規制基準適合性審査の状況。こちらは実用発電用原子炉の審査状況につきまして、委員会に四半期に一度報告を行うものです。

続きまして、2番の審査会合の関係です。

1枚飛ばして3ページ目を御覧ください。真ん中のほうから行きます。7月12日月曜日、(10) 第12回量子科学技術研究開発機構部会。こちらは佐藤核物質・放射線総括審議官の対応となります。議題は大きく2つございます。

議題の1つ目は、国立研究開発法人審議会の量子科学技術研究開発機構部会の任期が6

月から始まったことから、今回改めて部会長の互選と部会長代理の指名を行うものです。

議題の2つ目は、量子科学技術研究開発機構が令和2年度の業務実績を自己評価した結果について、部会がヒアリングを行うものです。

続きまして、その下です。(11) 第92回特定原子力施設監視・評価検討会。議題は大きく3つございます。

議題の1つ目は、ALPS処理水の処分の検討状況について、東京電力から現状の説明があるものです。

議題2は、ALPSスラリーの安定化処理設備に関しまして、前回、6月7日の検討会のコメント回答と、高性能容器、いわゆるHICの移し替えの準備状況について東京電力から説明を受けるものです。

最後です。議題3は、明日の7月7日の原子力規制委員会の議題3で審議された結果を規制庁から報告するものです。

私からは以上となります。

#### <質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。

ありがとうございました。

—了—